

洛東園 だより

■平成25年7月発行 社会福祉法人 洛東園
■発行責任者:木村晴恵
■〒605-0981 東山区本町15丁目794
■電話番号:561-1171 ■FAX:531-8372
■ホームページアドレス <http://www.wf-rakutouen.com>

ご挨拶 ～音～

社会福祉法人 洛東園 理事長 五十部 泰至

今年も暑い夏がやってきました。皆様元気で過ごしてはいかがでしょうか？ 近年の気候は変化がはげしく、今年はどうな夏になるのでしょうか。洛東園は、園長さんをはじめ、職員の皆様や、他の多くの方々の努力のお蔭で、大過なく過ごさせて頂いているようです。

さて、今回のテーマは「音」という原稿を依頼され、下手な文章を書く事となりました。音で頭に浮かんだのは、水の流れる音、風の音、鐘の音、鳥の鳴く声などの自然の音。ピアノやトランペットなどの楽器の音。

音は生活の中でも大きくかかっていると思います。鳥の声や水のせせらぎの音に心をなごませたり、季節を感じたりするのです。また、映画音楽を聴いて昔を思い出し、その場面を思い出す人もおられると思います。音楽は、人の感情を揺り動かします。

ここで脳と音の関係を思いつき少し調べてみたのですが、右脳、左脳という言葉が聞かれたことがあると思います。一般的に右脳は音楽脳、左脳は言語脳とされています。これ

は、欧米人や中国人に当てはまるのですが、日本人は少し違うようです。欧米人は楽器の音も自然の音として右脳で聞くそうです。日本人はピアノなどの楽器は欧米人と同じく右脳で聞くのですが、自然の音は左脳で聞くそうです。では、日本の邦楽器(琴、尺八など)はどうなのでしょう、欧米人は右脳で聞くのですが、日本人は左脳で聞くのです。欧米人が単なる音として捉えるのに対して、日本人は風情として、左脳で感じるのではないか、という説があります。

この違いは、生まれ育った言語の発音によるそうです。言葉も自然の音も左脳で聞く日本人、自然と同化する日本の文化も日本語から生まれたのではないのでしょうか。そう考えると日本語を大切にしたいものです。

話が少しずれましたが…、でも音のない世界で生活している人のことを考えると少し申し訳ない気がします。

まだまだ暑い日が続きますが、せせらぎの音でも聞きながら元気で過ごしてください。

洛東園の理念

- ◎個性・自主性を尊重し明るい温もりのある生活
- ◎安全と快適な暮らし
- ◎地域に根ざした開かれた施設

□ もみじの家 温かい音色



もみじの家では沖縄の楽器、三線(さんしん)を職員が取り出すと、利用者さんからは「待ってました」と声が上がります。その音色に合わせて手拍子をしたり、歌ったり、体を揺らして楽しんでおられます。

三線は、一般的には沖縄民謡が歌われることが多いのですが、もみじの家での演奏は利用者さんに馴染みのある曲が演奏されます。特に盛り上がる曲は「星影のワルツ」です。その他には「お座敷小唄」「お富さん」また、唱歌や童謡などです。

Aさんとは三線とハーモニカのセッションも行います。最近「しんどい、体がだるい。」が口癖になってしまっているAさんですが、ハーモニカを吹くときは凛とした表情で一生懸命演奏されています。

Bさんは歌が大好きですが、時々テンポが速くなって「こんなガラガラ歌ってられしまへん。」と表情が陰しくなることがあります。三線演奏の時は、テンポが速くなることもなく、曲が終わると「ええわ、次はなんですか?チャン、チャン、チャラランお座敷小唄か?」と喜ばれます。

Cさん「三線持ってきた?」

職員 「ありますよ。ではやりましょうか。」

そしてまた、温かい音色はもみじの家に広がります。



□ 特別養護老人ホーム「洛東園」 青春の音色



音楽好きな利用者Sさんの部屋では、いつも音楽が流れています。ベッドで過ごす時間が長いSさんは、口数は決して多くはありません。しかし、【りんごの歌】など、好きな歌が流れると、音に合わせて♪赤いリンゴに唇よせて♪と歌いだされる事があります。

週に一度、Sさんの部屋には音楽療法の先生がこられます。楽器による音色に合わせて歌われる事もありますが、目をそっと閉じ、じっと聞き入られる表情がとても印象的です。CDプレーヤーから流れる音ではなく、リコーダー、ビオラ、ヴァイオリンといった楽器を用いた音色がSさんの心に響いている様に感じられました。

演奏終了後、Sさんに「若い頃、よく歌を歌われていたんですか？」と尋ねると、Sさんは、「歌ってました」と笑顔が見られたので、職員が「どんな歌を歌われていたのですか？」と聞くと「うーん」と考え込まれていました。

その表情を見ていると、Sさんは、音楽を楽しむだけでなく、昔を懐かしむ時間にもなっているんだな、と改めて感じました。

Sさんの様に、利用者さん一人一人の中にも、多くの青春の音色があると思います。

今後は、沢山の利用者さんにも、音楽療法を通じ、青春時代がよみがえる様な楽しい演奏会が出来る様、取り組んでいければと考えています。



■ 特別養護老人ホーム「修道洛東園」 耳をすませば…



私たちの生活の中には、様々な『音』が存在します。

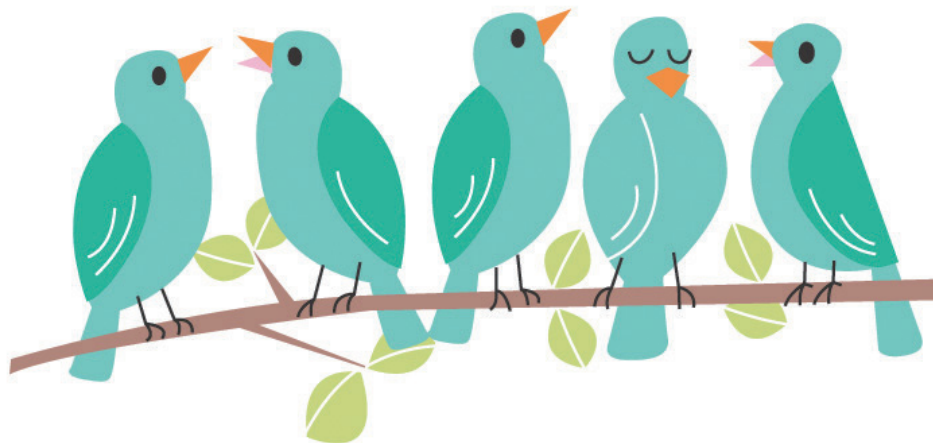
人の声やテレビの音。外からは車のクラクションや子供の笑い声が聞こえ、夜になると昼間には気付かなかった時計の秒針や人の寝息も聞こえてきます。普段何気ない日々の中で、私達は本当にたくさんの音に囲まれて生活しています。

施設の生活では、自宅で暮らしていた時には聞こえなかった音が聞こえてくることがあります。

利用者Mさんの居室に入室しようとする「〇〇さん？」と入室する前に名前を呼ばれました。何故分かったのか質問すると「歩く足音で分かるよ」と言われました。「毎日ジッとしていると色んな音が聞こえてくるからね。足音で誰の足音が分かるようになったんだ。」と話されました。

私はその時ハッとしました。聞きたくなくても聞こえてくる様々な音。静かに暮らしたいと思っていても職員の動き回る足音や話し声。その様な、職員が何気なく行っている業務中の音が、利用者さんにとっては不快な音になっているのでは?と思いました。私達職員は「利用者さんの生活の場に入り、仕事をしている」という認識を新たにしていけることが大切だとその利用者さんから教わりました。

目に見えることだけでなく、些細なことへの心配りを忘れない様にしていきたいと思います。



□ 養護老人ホーム

一日の始まりを告げる音

養護では、毎朝一日の始まりを告げる放送を行います。放送が終わるとラジオ体操、洛東園のうたが養護棟に流れます。

体操の音楽が始まると、利用者さんが居室から出て来られ、声を掛け合いながら、リズムに合わせ元気良く体を動かされます。体があまり動かせない方でも手拍子をしたり、他の利用者さんに声を掛ける姿も見られます。体操が終わると、みんなで洛東園のうたを合唱し、一日の生活が始まります。

利用者Kさんは「体操が終わったら外に出かけるのが日課でな。行きたい所に自分で行けるように足腰動かさなあかん」と、みんなに体操の声をかけに行かれます。また、Uさんは「音楽が始まったら、手を叩いたり、無理のないように両手を動かしているんです。やらないより少しでもやる方がええしね。洛東園のうたも毎日楽しく歌っています」と、立ちながらの体操は難しいので座って行っておられます。

ラジオ体操と洛東園のうたに利用者さんのかけ声や歌声が合わさり、一日の始まりを告げる音となります。これからも気持ちよく過ごせる音を利用者さんと共につくっていきたいと思います。



□ デイサービスセンター 音色に誘われて

認知症対応型通所介護サービスでは、部屋から外を眺めると、利用者さんと一緒に育てている花や、四季折々を感じる景色、風の音や雨の音など自然を感じられる事を大事にしています。テレビは置いていないので、会話や笑い声が響いています。

利用者Oさんは、「エルビス・プレスリー」のCDを持って来て、曲を流すと昔を思い出して、体を使ってリズムをとられます。

Yさんは小学校の音楽教員をされていたので、他の利用者さんに体を使った歌体操を教えてくださいます。

Fさんは以前幼稚園の先生で、曲名をリクエストすると、譜面も見ずにスラスラとエレクトーンを弾いて下さいます。その音色に誘われて、他の利用者さんも職員も、自然と歌を口ずさみ手拍子をしています。

古典の中で静けさ(閑けさ)は、「心が落ち着いているさま」「安らかなさま」と表されています。

これからも静けさの中から、利用者さんが生み出す心地よい音色に誘われて、優しく微笑んでいる姿を大切にしていきたいと思えます。



■ 居宅介護支援事業所

伝える工夫で「聞こえ」が変わる

私達は普段の生活の中で、人の声や色々な音を聞いて過ごしています。その声や音によって安心や喜びを感じたり、反対に不安や悲しみがわきあがったりします。また記憶を呼び起こすきっかけや、危険を察知することもあります。

音が聞こえにくくなると、補聴器を使われる方がたくさんおられますが、聴きたい音以外に色々な音が聞こえ不快感から使う事が嫌になったり、自分が必要な時しか使われない方もあります。その為に、「呼んでも返事をしない」「人の話を聞いてくれない」と家族や周囲の人から誤解をされることもあり、コミュニケーションがとりにくいことで会話が減り、閉じこもりがちになる場合もあります。

訪問時に聞き取りにくい方には、解り易い言葉で短くまとめ、低めの声でゆっくりと話をするようにしています。そして表情や、仕草、テレビの音量・話声などで「聞こえ」について確認を行っており、中には耳鼻科受診を勧め耳掃除をされて、聞こえるようになった方もおられました。

また、筆談を行う際も視力を考慮し字の大きさや太さを変えたり、カタカナ、ひらがななどその人に読みやすい字で対応するようにしています。今は聴覚障害者の方の生活支援を考えた商品や

ユニバーサルデザイン(すべての人が使いやすい)商品で「聞こえ」が改善できる事も増えてきています。

たとえば、玄関のチャイムが鳴ると部屋の中へ光で来客を知らせる物や、文字盤を使ったり、よく使う言葉をカードにしたり、テレビの聞こえにくい周波帯の音声を補強する物、骨伝導で音が聞こえる物などが有ります。

聞こえにくくなってきたと感じられるときは、一緒にコミュニケーションのとりやすい方法を考えていきたいと思っておりますのでお気軽にご相談ください。

コミュニケーション



訪問介護

移り変わる音、つなぐ音

先日、利用者Tさんより「最近、家の前を通る車やバイクが増え賑やかでかなわん、昔は子供の遊び声がよくしてたのになあ」とのお話がありました。

又、Nさんから、通院の途中に公園の横を通った時、「いつ通っても子供の姿がない。昔は、ぎょうさんの子供が遊んでいたのに。くったくのない声が、聞けんようになって寂しなってもうた」といったお声がありました。

昔は、学校や幼稚園の休みの日は、公園で多くの子供達が遊んでいて賑やかだったそうです。以前は、当たり前のように耳にしていた音も、お二人共最近、聞く事が出来なくなってしまい残念だそうです。

これ以外にも、大通りを走っていたチンチン電車が奏でる鐘の音、リヤカーを引きながら豆腐を売っていた豆腐屋さんの「パーフォー」と響くラッパの音、などの昔懐かしの音を耳にする機会は、寂しい事にほぼ無くなってしまいました。

音や臭いは、目で見たものよりも強く、記憶に残ると言われています。

そんな昔の情景が、色濃く記憶に残る音の数々、これらを私達ヘルパーが、再現する事は出来ません。しかし、利用者さんに音を思い出させる温かみのある会話を提供する事は出来ます。このような触れ合いが利用者さんの心の癒しにつながればと日々頑張っております。

洛東園の行事予定

施設名		7月	8月	9月
養護老人ホーム		七夕会	納涼夏祭り	敬老祝賀式
特別養護老人ホーム	洛東園	祇園祭り見学	納涼会	お月見
	修道 洛東園	祇園祭り見学	花火	修道洛東園まつり
デイサービスセンター		納涼会(カラオケ)	盆おどり	敬老祝賀式
もみじの家		個別外出支援	納涼祭・夏祭り	敬老祝賀式・家族交流会

..... その他、クラブなども随時行っております。

洛東園だより

発行／社会福祉法人 洛東園

〒605-0981 東山区本町15丁目794

電話番号:561-1171 FAX:531-8372

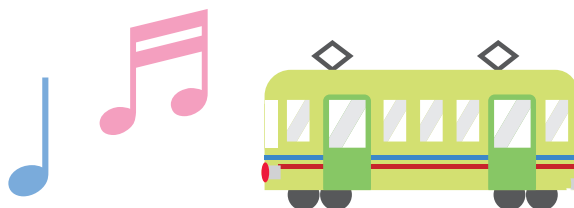
ホームページアドレス

<http://www.wf-rakutouen.com>

寄付

六原民生児童委員会様、若林佳代様
ありがとうございました

(寄付順)



※尚、記事中の写真は全てご本人様、ご家族様の承諾を得て掲載しております。